

後志教育研修センター学習指導委員会 検証授業
国語科 学習指導案

日時 平成16年11月8日(月)5校時
生徒 1年A組 27名
授業者 川田 賢一

1. 単元・学習材名 『4. 古典にふれる』 「竹取物語」

2. 学習材観

古典文学についての問題点は、時代が古いということから来る言語的抵抗である。古典入門期における古典指導の教材として、その言語的抵抗を取り除きやすいものを目ざさなければならない。本教材については、登場人物の行動を通して話の展開がはっきりし、内容のとらえやすいものであり、そして、なじみのない言葉や言いまわしが少なく、音読しやすいものである。生徒たちにとっても幼少の頃、聞き慣れている本学習材を用いて、しっかりと古文を音読することができ、独特のリズムを感得し読みなれることが大切である。繰り返し音読することによって内容的理解にもつなげていきたい。

3. 生徒の実態

授業に意欲的に取り組む生徒が多く、すべての活動に積極的に参加する。しかし、国語に対して苦手意識を持つ生徒も少なくなく、すべての単元において興味をもてるような工夫をし、楽しく学習する雰囲気を作ることによって、苦手意識を克服させていきたい。また、基礎学力の劣る生徒がおり、その生徒に教師や他の生徒が援助を行うが、学習内容を理解するにはまったく至らない。その生徒に対しては、板書をしっかりととることやその際に字を間違えないように指導する程度になっている。

4. 学習材の目標

(1) 古文の仮名遣い・言葉に注意し、古文のリズムをとらえ音読することができる。

(2) 昔の物語を読み、日本の古典に対する興味や関心を持つことができる。

5. 学習材の評価規準

話す・聞く能力	
書く能力	
読む能力	古文の仮名遣い・言葉に注意し、リズムをとらえ音読する。
言語事項	古文の仮名遣いと発音についてとらえ、古文の言葉についての知識を身につけようとしている。

6. 指導計画 (6時間)

時数	◇ねらい・主な学習の流れ	教師の関わり	評価規準【評価方法】
1～2	◇古文の仮名遣いと発音に注意し、古文を音読する。 ①古文を声に出して読む。 ②古文を音読しての感想 ・歴史的仮名遣いそのまま読んでしまう。 ・どこで区切ってよいかわからない。 ・間のとり方が難しい。 「が・は・を」の助詞が少ない。 ・時代劇の言葉みたい。 ・今使われていない言葉が面白い。 など	○生徒自身の読み方を大切にして、音読させる。 ○古文の言葉遣いについて、興味がわくようにする。	

	<p>③古文の仮名遣いと発音について ※歴史的仮名遣い ・語中、語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」 →「わ・い・う・え・お」 ・「ゐ・ゑ・を」→「い・え・お」 ・「ぢ・づ」→「じ・ず」 ・「くわ・ぐわ」→「か・が」 ・「ア段+(う・ふ)」→「オ段+う」 ・「イ段+(う・ふ)」→「イ段+ゆ+う」 ・「エ段+(う・ふ)」→「イ段+よ+う」 ・「む・なむ」→「ん・なん」</p> <p>④自分で古文の部分を音読しよう。 ・歴史的仮名遣いを読めるようになったぞ。 ・でも、どこで区切ったらわからないな？</p>	<p>○例題などを繰り返し、声に出させ、定着を図る。 ○現代でも使われているものを利用しながら、歴史的仮名遣いに興味を持たせる。</p> <p>○各自、歴史的仮名遣いに注意しながら、声に出して音読させる。</p>	<p>歴史的仮名遣いについて理解し、発音することができたか。(言) 【観察】【ノート】</p> <p>歴史的仮名遣いに注意して音読することができたか。(読) 【観察】</p>
3~4	<p>◇古文の言葉を理解し、古文のリズムをとらえ音読させる。</p> <p>①古文を音読する。</p> <p>②原文と現代語訳を比べて読み、その異同について確認する。 ・「うつくし」→「かわいらしい」 ・「いと」→「とても」 ・「子の時」→「午前12時」 ・「今は昔」→「昔々」 ・助詞「が・は・を」が省略されている。 など</p> <p>③古文の言葉について ・現代語と語形はあまり変わらないが、意味が少し違うもの。 ・意味そのものが現代語にないもの。 ・古文独特の言い方 月の呼び方、時の言い表し方など ・古文独特の語り出し 「今は昔……」</p> <p>④古文の仮名遣い・言葉に注意し、古文のリズムをとらえ音読することができる。</p>	<p>○歴史的仮名遣いに注意しながら、繰り返し音読させる。</p> <p>○教科書に線を引かせるなどして、原文と現代語の異同についてしっかりと確認させる。</p> <p>○例を挙げながら、生徒の理解の定着に努める。 ○古文の言葉への関心をもち、視点を整理する。</p> <p>○古文のリズムをとらえ音読させる。</p>	<p>原文と現代語との異同を、教科書に線を引くことができたか。(読) 【観察】</p> <p>古文の言葉への関心を持ち、現代語との違いを理解することができたか。(言) 【観察】【ノート】</p> <p>古文の仮名遣い・ことばに注意し、古文のリズムをとらえ音読することができたか。(読) 【観察】</p>

次時の意欲を喚起する。

特にハ行の仮名遣いを重点に支援する。

原文と現代語訳をしっかりと読ませ、気づかせるように支援する。

古文独特の言い回しをしっかりと押さえさせる。

5	<p>◇古文の仮名遣い・言葉に注意し、古文のリズムをとらえ音読することができる。</p> <p>①古文音読発表会をしよう。 ☆初めて読む古文を音読してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の竹取物語の原文は読めるようになったぞ。 初めて読むのも大丈夫だよ。 言葉の意味がわからない。 仮名遣いがまだできない。 	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「竹取物語」の教科書にない部分を読んでみよう！</p> <p>○古文のリズムをとらえ音読させる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">言葉の意味を補足したり、仮名遣いについて再度確認させる。</p>	<p>古文の仮名遣い・ことばに注意し、古文のリズムをとらえ音読することができたか。(読)</p> <p>【観察】</p>
6	<p>◇「竹取物語」についての概要を知る。</p> <p>①「かぐや姫」の話を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 竹の中から生まれた？ たくさんの男の人に結婚しようと言われたけど、全部断った。 満月の晩に月から迎えが来て、月に帰ってしまう。 <p>②全文を通読し、感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> おじいさんの名前がある。 かぐや姫は罪を犯していた。 富士山の由来があった。 月の人たちの能力がすごい。など <p>③「竹取物語」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 文学史上の位置付け 作者について 5つの場面からなっている 	<p>○生徒たちそれぞれに記憶があるはずであり、それを出し合い交流する。人によって少し違いがあるかもしれないが、訂正などをしない。</p> <p>○前の「かぐや姫」との比較や、興味を持った点、疑問に思ったことを中心に発表させる。</p> <p>○現代語訳のみの通読とし、比較しやすいようにする。</p> <p>○資料集を用いて説明をする。詳しくならないように留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝奇物語(作り物語)の元祖『物語のいでき始めの祖』「源氏物語」より 作者は不明 ①かぐや姫発見 ②求婚の場と告白の場 ③迎えに来る場 ④昇天の場 ⑤昇天後の場 	

7. 本時の学習 (4/6時間)

(1) 本時の目標

- 古文の言葉を理解し、古文のリズムをとらえ音読させる。

(2) 本時の展開

過程	生徒の活動・思考の流れ	教師の支援・評価規準
見つける	<p>○前時の想起</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">教科書の原文と現代語訳を読み、その異同に線を引いた。/ 古文の言葉は現代の言葉と少し違っている。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">前時に線を引いた教科書を読み直すように促し、学習意欲の喚起や前時の学習内容の想起を促す。</p>

見通す	<p>○課題発見・把握</p> <p>古文と現代語訳の言葉の違いを整理してみよう。(仮名遣い以外で)</p> <p>今使っている言葉の意味と違っている。 現代にない言葉がある。 「今は昔」が「昔々」??</p> <p>「子の時」の「子」って十二支だよ。時間に使っている。</p> <p>「が・は・を」が古文では省略されている。</p>	教科書のラインを整理させながら、机間支援を行う。
調べる	<p>○課題の焦点化・解決</p> <p>①現代語と似ているが、意味が違っている言葉。 ②意味そのものが現代語にない言葉。 ③古文独特の言い方(時間の言い方、月の言い方) ④古文独特の語りだし「今は昔、・・・」 ⑤「が・は・を」が省略されている。</p>	教科書のラインを整理させながら、①～⑤について焦点化させる。
まとめる	<p>いろいろな古典の言葉を①～⑤に分類してみよう。</p> <p>教科書にある古文の言葉を中心に、資料集などからいろいろな言葉を例示して、①～⑤に分類する。 【例】「をかし」「うつくし」「あたり」「いと」「げに」「いみじ」「丑三つ」「弥生」「十五日」「今は昔」「男ありけり」「もと光る竹」</p> <p>①「をかし」「うつくし」「あたり」 ②「いと」「げに」「いみじ」 ③「丑三つ」「弥生」「十五日」 ④「今は昔」 ⑤「男ありけり」「もと光る竹」</p> <p>何かどこかで聞いたことがあるような言葉も多いな。</p>	<p>古文の言葉と現代語の違いを理解することだけに努める。現代語訳を補足することもある。</p> <p>(言)古文の言葉と現代語との違いを理解することができたか。 【観察】【ノート】</p>
広げる	<p>○単元の課題解決</p> <p>古文の仮名遣い・ことばに注意し、古文のリズムをとらえ音読しよう。</p> <p>～教科書の原文を各自で音読しましょう!!～</p> <p>仮名遣いに注意しよう!</p> <p>話の内容が見えたから、区切ることができた。</p> <p>○次時の予告 ～教科書の原文の音読発表～</p> <p>いろいろな古文を読んでみよう!!</p> <p>～「竹取物語」で教科書にない古文を読もう!～</p> <p>どんなところの話を読んだら</p> <p>読めるかな・・・。</p>	<p>机間支援しながら、音読できない生徒へ音読を促す。</p> <p>古文の仮名遣い・ことばに注意し、古文のリズムをとらえ音読することができたか。(読) 【観察】</p>

◎ 授業の改善点

～中学校における古典の指導について「C 読むこと」～

「古典の指導については、古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること。」である。
 そのために、「音読などを通して文章の内容や優れた表現を味わう事ができるようにし」、「文語における言葉のきまりについては、細部にわたることなく、教材に即して必要な範囲の指導にとどめること。」をしていかなければならない。



～第1学年における古典の指導について～

- (1) 歴史的仮名遣い・古語と現代語の違いについての知識・理解を深め
- (2) 音読をすることによって、あらすじをとらえられるようにする

☆知識・理解だけに重点をおくのではなく、音読し古文を口で発声することによって、文章の内容や優れた表現を味わうようにする。



古来よりの美しいことばを体得させていきたい。

目標と評価規準の見直

4. 学習材の目標

- (1) 歴史的仮名遣いに注意して音読し、あらすじをつかむことができる。
- (2) 昔の物語を読み、日本の古典に対する興味や関心を持つことができる。

5. 学習材の評価規準

話す・聞く能力	
書く能力	
読む能力	歴史的仮名遣いに注意して音読し、あらすじをつかんでいる。
言語事項	古文の仮名遣いと発音についてとらえ、古文の言葉についての知識を身につけようとしている。

ただ音読するだけでなく、そこから古語と現代語の違いについてとらえて欲しい！！


音読という言語活動において、確かな読みをできる基礎作りをしたい！！

7. 本時の学習

- (1) 本時の目標
 - ・古文の言葉を理解し、古文のリズムをとらえ音読させる。

(2) 本時の展開

過程	生徒の活動・思考の流れ	教師の支援・評価規準
	歴史的仮名遣いに注意して音読しよう。	
	<ul style="list-style-type: none"> ◇全員で合わせて音読。 ◇個人での音読発表。 ◇グループ内で相互に音読発表。 	

<p>見つける</p> <p>見通す</p>	<p>○課題発見・把握</p> <p>古文と現代語訳の言葉の違いを整理してみよう。(仮名遣い以外で)</p> <p>今使っている言葉の意味と違っている。 現代にない言葉がある。 「今は昔」が「昔々」??</p> <p>「子の時」の「子」って十二支だよ。時間に使っている。</p> <p>「が・は・を」が古文では省略されている。</p> <p>↓</p> <p>○課題の焦点化・解決</p> <p>①現代語と似ているが、意味が違っている言葉。 ②意味そのものが現代語にない言葉。 ③古文独特の言い方(時間の言い方, 月の言い方) ④古文独特の語りだし「今は昔, …」 ⑤「が・は・を」が省略されている。</p>	<p>教科書を整理させながら、机間支援を行う。</p> <p>教科書のラインを整理させながら、①～⑤について焦点化させる。</p> <p>(言) 古語と現代語との違いを理解している。</p> <p>【観察】【ノート】</p>
<p>調べる・まとめる</p>	<p>○単元の課題解決</p> <p>古文の仮名遣い・ことばに注意し、古文のリズムをとらえ音読しよう。</p> <p>～教科書の原文を各自で音読しましょう!!～</p> <p>仮名遣いに注意しよう!</p> <p>古語が分かってきたから、区切ることができた。</p>	<p>音読できない生徒を個別指導する。</p> <p>(言) 古文の仮名遣い・ことばに注意し、古文のリズムをとらえ音読している。</p> <p>【観察】 【自己評価カード】</p>
<p>広げる</p>	<p>○～教科書の原文の音読発表～</p> <p>教科書の古文を読んでみよう!!</p> <p>～教科書の古文の言葉を理解し、リズムをとらえて読もう!～</p> <p>◇全員で合わせて音読。 ◇個人での音読発表。 ◇グループ内で相互に音読発表。</p> 	<p>【観察】 【自己評価カード】</p>

音読活動を多くとることによって、確かな言語能力を身につけさせ、確かな読みかできるように工夫してみました。